

## ダンボールの中で生ごみがへんしん (P13)

### <ねらい>

生ごみが、工夫（分解）によって肥料に変わるということを学び、微生物のはたらきや物質の循環に気付かせる。

### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ カビやダニなどが発生する場合があるので、アレルギーをもっている家族がいる場合は、室内での肥料づくりは避けた方が良いでしょう。
- ◆ 気温が上がると小バエ等が発生しやすくなるので、生ごみはためておかず、すぐダンボール箱に入れるようにしましょう。
- ◆はじめのうちは、生ごみを分解する微生物がほとんどないので、分解が進まず、中の温度も上がりませんが、1～2週間ほどで分解が活発になってきます。途中で投げ出さず、毎日必ずかき混せるようにしてください。
- ◆ 中の温度がなかなか上がらないときは、米ぬかや砂糖、きな粉、使用済み天ぷら油（200cc以下）などを入れるとよいです。
- ◆ ダンボールは、分解の際に水蒸気を外に逃がしたり、微生物の活動（発酵）に必要な空気を通したりするので、通気性のないビニール袋などで覆わないでください。
- ◆ 温度計は、折れやすいので扱いに注意し、1回目は生ごみを入れてから、2回目以降は生ごみを入れる前に、中心部分の温度を計ってください。
- ◆ 肥料づくりの過程では、臭いがします。（森の土の臭い、畑の土の臭い、軽いカビ臭）
- ◆ 生ごみの量が多すぎたり、かくはんが不十分である場合は、悪臭が発生します。1日平均で処理できる生ごみの量は、500～600グラムくらいです。ただし、最初の日の投入量は、少し多め（1キログラム程度）がよいでしょう。
- ◆ パサパサしている場合は、コップ1～2杯の水（ぬるま湯も可）を加えましょう。
- ◆ 生ごみは、家庭から発生するごみの多くを占めています。ごみの排出量を減らすため、食べ残しや手つかずの食品の廃棄などについて、子供たちと一緒に考えてみてください。
- ◆ このプログラムで出来た肥料をプランターなどで使う場合は、さらに同量程度の土と混ぜましょう。

## 牛乳パックでリサイクル紙づくり (P15)

### <ねらい>

牛乳パックを使った紙づくりを通して、紙が色々なものからつくられるということを知るとともに、紙を再生し、できた紙を実際に使うというリサイクルの体験を通じて、リサイクルがごみの減量につながることを気付かせる。

### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ 牛乳パックを溶かすために、火気や熱湯を使います。また、できあがった紙を乾かすためにアイロンを使う場合もありますので、火傷をしないよう、取り扱いに十分注意してください。
- ◆ 紙すき枠作成の際、カッターナイフを使うので、けがをしないよう注意してください。また、カッター板を使うと良いでしょう。

## 環境に関するマークを探そう (P17)

### <ねらい>

環境に関するマークの目的や意味を知ることから、環境に配慮した製品に関心をもち、商品を選ぶとき、捨てるときの考え方を見直すきっかけとする。

### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ 環境省のホームページに、「環境ラベル等データベース」があるので、参考にしてください。

<http://www.env.go.jp/policy/hozan/green/ecolabel/>

## スーパーマーケット探検隊 (P19)

### <ねらい>

スーパーマーケットなどで行われているリサイクルなどの環境に対する取組を調べることにより、様々な場所で、環境に配慮する活動・取組が行われていることを学ぶ。

### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ 事業者の取組の良し悪しを比較することが目的ではありません。
- ◆ 調査内容としては、次のような例が考えられます。

お店のごみ処理方法  
お店の資源回収の方法  
お店で販売している再生品（リサイクル製品）  
過剰包装に関する考え方  
レジ袋に関する考え方  
売れ残った商品の処理方法

## ごみマップをつくろう (P21)

### <ねらい>

マップづくりを通して、自分たちが住むまちの環境美化について考える。

### <安全面や実施上の注意点>

- ◆ 安全にプログラムを実施するために、子供の年齢や地域の状況などに応じて、ごみの種類を「たばこ」や「紙くず」、「空き缶」など限定したり、調査する区域を、公園内や学校のまわりなどに限定して、実施してください。
- ◆ 調査の際、落ちているごみを拾うということも大切な取組ですが、危険なものがあるかもしれませんので、大人（指導者）が判断をしてください。
- ◆ 同じような条件下にもかかわらず、多くのごみが散乱している場所や、ごみが全く落ちていない場所があるなど、それに相応の理由があります。こうした理由を考え、対処方法を考えることが、このプログラムの重要な視点です。
- ◆ 同一の場所で、季節による違いや、対策を施した後の違いを比較することも、考察のヒントになります。